

平成29年度

教育に関する事務の管理及び執行の  
状況の点検及び評価の結果報告書  
(平成28年度事務事業対象)

平成29年12月  
宇土市教育委員会

## 事業名一覧

	事業名	担当課	ページ
1	入学準備祝金事業	学校教育課	4
2	適応指導教室事業	//	6
3	特別支援教育事業（小学校）	//	8
4	特別支援教育事業（中学校）	//	10
5	コミュニティ・スクール事業	//	12
6	語学指導委託事業	//	14
7	地域教育コーディネーター育成・活用事業	生涯活動推進課	16
8	放課後子ども教室推進事業	//	18
9	人材活用事業	//	20
10	史跡宇土城跡保存整備事業	文化課	22
11	市内重要遺跡保存活用事業	//	24
12	小西行長関連事業	//	26
13	大太鼓活用事業	//	28
14	宇土市歴史的資料保存活用事業	//	30
15	図書館蔵書充実事業	図書館	32
16	給食センター施設整備事業	給食センター	34
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			

## I 点検・評価制度の概要

### 1 経緯

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成20年4月から施行されました。

地教行法の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行うことが義務付けられました。

### 2 目的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、すべての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会です。その役割は、事務局職員を、様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督し、中立的な意思決定を行うものです。

事務の点検・評価は、上記地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的としています。

### 3 対象事業の選定方法

点検評価の対象事業は、行政の政策や施策、事務事業を有効性、効率性などの視点から一定の物差し（指標）によって客観的に評価し、事務改善や分かりやすく透明性の高い市政運営につなげていくために実施された「宇土市事務事業評価」の評価体系に準じ、教育委員会が実施した全事務事業の中から、事業費が多額にわたるもの、社会的関心が高いものなど、事業の在り方を検証する必要性が高いと判断される16事業を選定しました。

### 4 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定による有識者の知見の活用については、担当課が行った点検・評価（自己評価）の結果について、学識経験者を含む4人の外部評価委員に、対象事業についてのご意見をいただきました。

#### 外部評価委員名簿

氏名	職業等	委嘱期間
田口 剛	元教師	委嘱の日から平成31年3月31日
伊勢 聰	放課後子ども教室 コーディネーター	〃
高田 勝廣	走湯公民館長	〃
小崎 真由美	市P連副会長	〃

## 5 教育委員会としての今後の方向性

担当課自己評価に対する外部評価委員のご意見等を踏まえ、最終的に教育委員会としての今後の方向性を下記5つの中から選択しました。

拡充	事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
維持	概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
要改善	現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
廃止	事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

### <参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## Ⅱ 点検・評価の結果

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	入学準備祝金事業	担当課	学校教育課
事業目的	宇土市入学準備祝金制度は、社会的有用な人材を育成するために、進学した者に対し進学した年の1回に限り支給する給付型の奨学金		
事業内容	宇土市に1年以上居住し、高等学校以上に進学する者がいる世帯に対して、世帯収入額が350万円以下または市民税年額1万円以下の条件に合致する世帯に対して奨学金を給付する。 高等学校・高等専門学校・専修学校に進学する者には5万円 短大・専修学校(専門学校)・大学に進学する者には10万円		
28年度の進捗状況	高等学校・高等専門学校・専修学校に進学する者について(支給決定者10人, 応募者12人) 短大・専修学校(専門学校)・大学 (支給者8人, 応募者13人)		
課題・問題点	宇土市入学準備祝金基金の財源は寄付金と基金利子であり、安定な高額な収入源は望めない状況である。現在の基金残高は20,437千円であるが、毎年130万円の奨学金基金を支給しているために推計では平成44年に基金が枯渇する。ただし平成28年度は熊本地震のため、高額寄付金があった。		
予算額・決算額	H26予算額 1,540千円 H27予算額 1,430千円 H28予算額 2,509千円	H26決算額 1,487千円 H27決算額 1,177千円 H28決算額 2,456千円	
担当課自己評価	経済的な理由から進学することをあきらめてしまうことのないように、本制度の今後も継続していきたい。また給付型の奨学金制度であることから、給付を受ける側の世帯にとって非常に有益な制度である。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育を受ける意欲ある人材に、十分な就学の機会を与えることは、大変いいことだと思う。将来的にも継続することを望みます。</li> <li>・とても大切な制度であるので、今後も継続が望ましい。</li> <li>・350万円以下または市税1万円以下の条件もついており妥当だと考える。扶養家族数とかも考慮して条件を引き上げることができたらいいのになあと思う。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>現在、日本学生支援機構などが実施している奨学金制度は、貸与型の奨学金制度として整備されているのに対して、本市の入学準備祝金は、特に費用がかかる入学時に、経済的に困窮する世帯に対して、向学心のある学生が安心して入学し、新しいスタートをきれるように応援する制度としての特長を持っている。</p> <p>給付条件等について、妥当であるとの意見をいただきながらも、扶養要件などを考慮すべきだとの御意見をいただいたので、今後は、他自治体の要件を参考にしながら、現在の給付要件に追加すべきかについて検討する。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を, より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し, 規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が, 効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	適応指導教室事業	担当課	学校教育課
事業目的	心理的または情緒的な原因により、登校できない児童生徒に対し、相談・指導等を行うことにより、学校復帰を支援し、登校できない児童生徒の社会的自立を育てる。		
事業内容	不登校児童生徒対応のために適応指導教室「ほっとスペース」を設置し、小集団での制作活動や軽スポーツを通して社会性を養うとともに、学習支援活動を行い学校復帰を図る。		
28年度の進捗状況	平成28年度は適応指導教室通学者の学校復帰人数は3人であった。		
課題・問題点	適応指導教室に通う子どもたちの目標は学校復帰(教室に入れること)であるが、適応指導教室に通う全ての子どもたちの復帰には至らなかった。		
予算額・決算額	H26予算額 3,306千円 H27予算額 3,167千円 H28予算額 3,373千円	H26決算額 2,962千円 H27決算額 2,379千円 H28決算額 3,234千円	
担当課 自己評価	学校や教室になじめない不登校等の児童・生徒にとって、社会生活性を養うために必要な制度である。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・適応指導教室通学者の学校復帰ができるようこの事業の成果を期待します。</li> <li>・大切な制度であるので、より充実してほしい。</li> <li>・学校復帰人数が5人中3人おられたとのこと事業成果は十分にできていると思う。</li> <li>・「自立を育てる」よりは「自立を目指す」の方が良い。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>本事業については、委員から充実や維持すべきとの御意見をいただいた。          本事業が児童・生徒の学校・学級への復帰をめざし、事業を実施しているが、成果としては全児童・生徒の学校復帰には至っていない。          ただ学校に登校できない子どもたちが、社会生活をすこすうえで、本適応指導教室でエネルギーを蓄えて、今後充実した生活ができるようにすることは、大変意義あることであるため、今後も本事業を継続して実施していく。</p>			
教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		



※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	特別支援教育事業(小学校)	担当課	学校教育課
事業目的	発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行い自立に向けて支援するもの。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立7小学校に特別支援学級、通級指導教室を設置する。</li> <li>・発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童に、よりきめ細かい適切な教育支援を行うため、市単独財源で非常勤職員を学校に配置する。</li> <li>・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会を開催することにより、障がいに応じた適切な教育支援を実践する。</li> </ul>		
28年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級は15学級(自閉症・情緒障害8学級、知的障害5学級、肢体不自由1学級、難聴1学級)あり、児童数は54人、宇土・花園小学校に通級指導教室を設置した。</li> <li>・発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童向けに非常勤職員20名を学校に配置した。平成28年度は、国の地方創生加速化交付金を財源に充てた。</li> <li>・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会を開催し、障がいに応じた適切な教育支援の実践に繋げた。</li> </ul>		
課題・問題点	特別支援学級の対象とすべき児童や、発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童は増加傾向にあり、特別支援学級の設置、非常勤職員の人材確保が課題である。		
予算額・決算額	H26予算額 10,046千円 H27予算額 10,162千円 H28予算額 12,807千円	H26決算額 9,688千円 H27決算額 9,030千円 H28決算額 11,260千円	
担当課 自己評価	発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童は年々増加傾向にあり、よりきめ細かい適切な教育的支援を図るため、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行い、自立することができるよう今後も継続していく必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの児童に応じたきめ細かな指導、行き届く指導がなされることは大変良いことだと思います。</li> <li>・市単独財源で、多くの非常勤職員を学校に配置してあり、すばらしいと感じた。今後もぜひ継続してほしい。</li> <li>・「教育支援委員会と特別支援教育連携協議会」については、説明を聞いて解った。</li> <li>・市単独財源で対処されておられることは立派だと思う。国とか県が一部の財源でも出してくれたらいいのと思う。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
今後も特別に支援を要する児童に対し、よりきめ細かく、一人ひとりに寄り添った適切な支援が継続して実施できるよう工夫するとともに、引き続き、必要な人材の確保及び予算の確保に努める。			
教育委員会としての 今後の方向性	拡 充	維 持	要 改 善 ・ 廃 止

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	特別支援教育事業(中学校)	担当課	学校教育課
事業目的	発達障害を含む障がいのある生徒や特別な配慮を必要とする生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行い自立に向けて支援するもの。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立3中学校に特別支援学級、通級指導教室を設置する。</li> <li>・発達障害を含む障がいのある生徒や特別な配慮を必要とする生徒一人ひとりの状態に応じた、よりきめ細かい適切な教育支援を行うため、市単独財源で非常勤職員を学校に配置する。</li> <li>・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会を開催することにより、障がいに応じた適切な教育支援を実践する。</li> </ul>		
28年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級は6学級(自閉症・情緒障害2学級、知的障害2学級、難聴1学級、弱視1学級)あり、生徒数は18人、鶴城中学校に通級指導教室を設置した。</li> <li>・発達障害を含む障がいのある生徒や特別な配慮を必要とする生徒向けに、市単独財源で非常勤職員6名を学校に配置した。</li> <li>・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会を開催し、障がいに応じた適切な教育支援の実施に繋げた。</li> </ul>		
課題・問題点	特別支援学級の対象とすべき生徒や、発達障害を含む障がいのある生徒や特別な配慮を必要とする生徒は増加傾向にあり、特別支援学級の設置、非常勤職員の人材確保が課題である。		
予算額・決算額	H26予算額 6,114千円 H27予算額 4,065千円 H28予算額 6,349千円	H26決算額 5,230千円 H27決算額 3,355千円 H28決算額 4,050千円	
担当課自己評価	発達障害を含む障がいのある生徒や特別な配慮を必要とする生徒は年々増加傾向にあり、よりきめ細かい適切な教育的支援を図るため、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行い、自立することができるよう今後も継続していく必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの生徒に応じたきめ細かな指導、行き届く指導がなされることを期待します。</li> <li>・市単独財源で、多くの非常勤職員を学校に配置しており、すばらしいと感じた。今後もぜひ継続してほしい。</li> <li>・「教育支援委員会と特別支援教育連携協議会」については、説明を聞いて解った。</li> <li>・市単独財源で対処されておられることは立派だと思う。国とか県が一部の財源でも出してくれたらいいのと思う。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
今後も特別に支援を要する生徒に対し、よりきめ細かく、一人ひとりに寄り添った適切な支援が継続して実施できるよう工夫するとともに、引き続き、必要な人材の確保及び予算の確保に努める。			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 <input checked="" type="radio"/> 維 持                          要 改 善                          廃 止		

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を, より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し, 規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が, 効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	コミュニティ・スクール事業	担当課	学校教育課
事業目的	保護者・地域住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となり、より良い教育の実現に取り組むもの。		
事業内容	学校運営協議会を開催し、委員から学校運営や教育活動等に多様な意見をいただき、学校目標の共有化及び学校評価を踏まえ、改善や見直しを図る。 また、コミュニティ活動の実践により、学校の教育活動の活性化を図る。		
28年度の進捗状況	市立小学校5校・中学校2校で学校運営協議会を設置(網田地区は小中共同設置)し、会議を開催した。学校とボランティア等の地域人材とがつながり、子どもたちが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを地域全体で考えることで、学校教育活動の活性化、子どもたちの生活改善、学力向上に寄与することができた。		
課題・問題点	学校運営協議会が未設置の宇土小学校、宇土東小学校、鶴城中学校での事業実施及びスムーズな事業開始が課題である。		
予算額・決算額	H26予算額 1,029千円 H27予算額 1,205千円 H28予算額 1,148千円	H26決算額 908千円 H27決算額 880千円 H28決算額 980千円	
担当課 自己評価	コミュニティを構成し実践することにより、学校・家庭・地域社会の連携強化を図り、効果的な情報収集と発信を行った。それにより、学校運営協議会を核とした学校・家庭・地域社会のネットワークの強化に繋がってきている。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小中学校がコミュニティスクールとして取り組めるよう、努力してほしい。</li> <li>・事業目的に書かれているとおり「学校・家庭・地域社会」が一体的になって、より良い教育の実現を目指すべきと思う。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> <li>・コミュニティ・スクールがない学校は、熊本版コミュニティ・スクールを実施しているが、市内全小中学校でコミュニティ・スクールが設置できるように取り組んでほしい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>よりよい教育を推進するためには、学校、家庭、地域社会の連携強化をさらに図る必要がある。事業の目的が達成できるよう、各学校のニーズに応じた支援を行うとともに、全小中学校で学校運営協議会を設置し、事業実施ができるよう取り組む。</p> <p>熊本版コミュニティ・スクールを実施している3校(宇土小・宇土東小・鶴城中)について、コミュニティ・スクールが実施できるよう継続して取り組んでいく。</p>			
教育委員会としての 今後の方向性	<div style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 10px;">拡 充</span> <span style="margin: 0 10px;">維 持</span> <span style="margin: 0 10px;">・</span> <span style="margin: 0 10px;">要 改 善</span> <span style="margin: 0 10px;">・</span> <span style="margin: 0 10px;">廃 止</span> </div>		

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	語学指導委託事業	担当課	学校教育課
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導は、外国語指導助手として雇用しているALTと連携して、小中学校で外国語の授業の補助を行うことで、よりきめ細やかな指導の実現を目的とする。</li> <li>・日本語指導は、宇土市立小中学校に在籍する児童生徒で、日本語が十分に理解できない外国からの帰国児童生徒及び外国籍児童生徒が不安なく学校生活を送ることを目的とする。</li> </ul>		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導は、宇土市での外国語指導の実績がある市内の業者へ委託して、外国語指導助手として雇用しているALTと連携して、小中学校で外国語の授業の補助を行う。</li> <li>・日本語指導は、県内での日本語指導の実績がある団体へ委託して、該当児童生徒が在籍する学校で個別指導を行う。</li> </ul>		
28年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導は、外国語指導助手を市立小学校7校へ計1,451時間派遣した。派遣先の学校現場では、その指導内容や指導力について非常に高い評価が得られた。</li> <li>・日本語指導の平成28年度対象者は、鶴城中学校2名、宇土小学校2名でいずれも外国籍の児童・生徒だった。1日2時間、週2回を基本に講師を派遣したが、熊本地震後、一部の児童・生徒が本国へ帰国していたため、半年程度の実施となった。</li> </ul>		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導では、平成32年度から実施される次期学習指導要領で小学校での外国語学習が拡充されるのに備えて、平成30年度からの2年度を移行期間として外国語の授業を前倒しで増やす予定であり、外国語指導助手に求められる役割が大きくなる。</li> <li>・日本語指導は、対象人数が増加した場合や多国籍化した場合の対応が課題である。</li> </ul>		
予算額・決算額	H26予算額 3,675千円 H27予算額 4,694千円 H28予算額 4,476千円	H26決算額 3,620千円 H27決算額 4,269千円 H28決算額 4,103千円	
担当課自己評価	外国語指導、日本語指導ともに、学校現場からの評価は高く、事業の目的はある程度達成できていると思われる。両事業ともに今後の必要性がますます高まることが予想され、今後も更なる充実が必要である。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導助手の設置は、大変素晴らしいことと思います。更なる充実を望みます。日本語指導も必要性はこれから高まることと思います。</li> <li>・今後の必要性が高くなると思われるので、さらなる充実が望まれる。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導は、学校の教員やALTとの連携を強化して、児童生徒の市の英語教育がより充実するように活用していきたい。</li> <li>・日本語指導は、平成29年度に施行した事業実施要綱の規定に基づき、今後も継続して適切に事業を実施していきたい。</li> </ul>			
教育委員会としての今後の方向性	拡充      維持      ・      要改善      ・      廃止		



※評価判定

拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	地域教育コーディネーター育成・活用事業	担当課	生涯活動推進課
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てる体制の構築</li> <li>・地域の活性化や学校を核とした地域づくり</li> <li>・地域住民(学校支援ボランティア)の知識や経験を生かす場の提供</li> <li>・教員の子供と向き合う時間の確保</li> </ul>		
事業内容	<p>鶴城中学校区及び住吉中学校区内の小中学校(2中学校6小学校)を対象に、地域住民から学校支援ボランティアを募り、環境美化・本の読み聞かせ・通学路の安全指導・学習支援などのボランティア活動を実施する。学校からの要請に応じてボランティア活動を行うことで、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を支援していくものである。</p>		
28年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア養成講座(全2回)</li> <li>・地域協議会開催(全4回)</li> <li>・本の読み聞かせ支援(167回)、校内環境整備支援(4回)、通学路の安全指導(学校登校日通常実施)、学習支援(120回)、行事支援(24回)</li> </ul>		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業のさらなる啓発と情報発信</li> <li>・学校支援ボランティアの確保</li> </ul>		
予算額・決算額	H26予算額 2,033千円 H27予算額 1,659千円 H28予算額 1,526千円	H26決算額 1,779千円 H27決算額 1,571千円 H28決算額 1,513千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティア(地域住民)の知識、経験を活かす機会を設けることにより、地域の活性化・学校を核とした地域づくりへとつなげる契機になってきている。現在は学校からの依頼を受けて実施しているが、今後は、新たな「地域学校協働活動」として、地域住民・ボランティア側から、学校への積極的な関わりが持てるよう、支援していきたい。</li> <li>・学校支援ボランティアの実践が子供たちの心に届き、ボランティアの心を育むのに役立っている。</li> </ul>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターをいかに活用するかが課題である。</li> <li>・学校支援ボランティアの人材発掘と事業の充実をとりこんでほしい。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>毎年継続して事業を実施することにより、宇土市内各小中学校と学校支援ボランティアとの信頼関係が深まってきている、と感じている。また、児童生徒のボランティア精神の高まりも感じている。</p> <p>今後は、「地域学校協働活動」として、学校と地域社会との更なる連携を目指し、事業を実施していきます。そのためには、より多くのボランティアへの呼びかけや活動メニューの見直し、コーディネーターの充実などを図る。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	放課後子ども教室推進事業	担当課	生涯活動推進課
事業目的	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回(水曜日と金曜日)実施。水曜日は学習アドバイザーによる学びタイム(ドリル学習など)、金曜日は地域の方々と共に活動するふるさとタイム(スポーツや伝承あそびなど)。</li> <li>・事業運営委員会(年2回)及びスタッフ会議(学期ごと)の開催</li> <li>・教育委員会ALTとの交流や、県派遣のボランティアの活用</li> </ul>		
28年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網田小学校を対象に、全校児童105名のうち22名が参加。</li> <li>・実施回数全52回(学びタイム23回、ふるさとタイム26回、中止3回)</li> </ul>		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の主体的な活動を円滑に実施するためのコーディネーターや学習アドバイザー・安全管理員等の育成と確保</li> <li>・魅力ある事業プログラムの開発、創造</li> <li>・放課後児童クラブとの円滑な連携</li> </ul>		
予算額・決算額	H26予算額 659千円 H27予算額 659千円 H28予算額 578千円	H26決算額 524千円 H27決算額 517千円 H28決算額 473千円	
担当課 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期や季節に応じたふるさとタイムを実施し、参加する子どもたちの生き生きとした姿が見られた。</li> <li>・地域の大人とのかかわりの中で、感謝する心や物を大切にする態度など、子どもの豊かな心を育む契機となっている。</li> <li>・今後は「地域学校協働活動」の一環として、ボランティアがより一層積極的に関わっていただけるよう、支援していきたい。</li> </ul>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員の確保がむずかしいことだと思います。</li> <li>・他の学校への広がりができればよいと思う。また学童保育との連携がうまくできればよいのだが。</li> <li>・事業の継続は大切である。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>余裕教室等を放課後の居場所のひとつとすることで子どもたちの安全を確保し、さらに地域の様々な世代の方々との交流を経ながら、子どもたちのコミュニケーション力、地域を愛する心などを育む事業として、今後も引き続き継続して実施したいと考える。特に、今後は、地域教育コーディネーター育成・活用事業とともに「地域学校協働活動」のひとつとして位置づけ、学校と地域社会との更なる連携を図っていきたい。</p> <p>ただし、ご指摘のように指導員についての後継者・増員は喫緊の課題であると認識しており、今後人材発掘に努め継続して実施していく。</p>			
教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	人材活用事業	担当課	生涯活動推進課課
事業目的	様々な知識や技術を持つ地域の方々を募り、学校や団体、地域に派遣し、伝統・文化の継承や世代間の交流等を行うことによって、地域の教育力の向上と生涯学習活動の推進を図る。		
事業内容	・生け花や絵手紙、昔遊び、太鼓演奏、着付けといった、伝統文化分野を中心とし、市民から要望のある分野での専門知識を持つ方へ指導を依頼。宇土市内小中学校や各地区公民館など、数多くの公共施設へ指導者を派遣し、世代間交流などを図る。		
28年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者登録者数(講師43名・補助講師26名・団体9団体)</li> <li>・申請件数28件、派遣実施日55日、派遣指導者延べ159名、利用者数延べ1,790名</li> <li>・広報やホームページでの、指導者の募集や事前研修会等のPR</li> <li>・平成28年度の実績をまとめ、冊子を作成。</li> </ul>		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の方への、より一層の事業の周知</li> <li>・伝統芸能分野を中心とした、登録指導者の高齢化による後継者等の確保</li> </ul>		
予算額・決算額	H26予算額 208千円 H27予算額 208千円 H28予算額 209千円	H26決算額 120千円 H27決算額 151千円 H28決算額 131千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者や受講者双方から建設的な声をいただき、伝統や技術、生きがいなどを与える機会になっている。地域教育力の向上と生涯学習の推進を図るための、重要な事業のひとつとして認識している。</li> </ul>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の充実・発展を期待します。</li> <li>・地域教育力の向上と生涯学習の推進の為、今後も大切な事業として継続してほしい。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>地域の皆さんが持っている技術、知識の伝承を通じ、子どもたちのスキルアップや地域の方の生きがいにつながっていると考えている。今後もさらなる利用促進に向け、指導項目・指導者の拡充及び事業の啓発に努めながら、継続して実施していく。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	史跡宇土城跡保存整備事業		担当課	文化課
事業目的	<p>史跡宇土城跡は、中世城跡としては県内で最初に国指定史跡となった貴重な文化財であり、恒久的に保存するため適切な維持管理を行うとともに、発掘調査の成果に基づいた整備を実施し、多くの市民の憩いの場や野外博物館的な施設等として生涯学習の拠点とする。加えて、体験発掘やキャスルウォーキングといった市民参加型のイベントを通じ、重要な地域資源としての認知度を向上させ、まちづくりの拠点としても活用することを目的とする。</p>			
事業内容	<p>保存整備工事を昭和56年度より着手。整備のための発掘調査を平成2年度(4次調査)から実施している。城跡東側の西岡神宮北側地区(第1ブロック)及び城の中心をなす千畳敷及び周辺地区(第2ブロック)は、平成18年度までに保存整備を終了し、一般開放している。また、19年度より三城及び周辺地区(第3ブロック)の保存整備に着手し、一部復元工事を除き25年度までに整備をおおむね完了した。その後、長期計画に位置付けられる貝塚地区・空堀地区(第4・5ブロック)の発掘調査に着手し、調査成果を反映した整備工事を計画している。</p> <p>なお、本事業は国庫補助金を得て実施している(補助率50%。事業費10,000千円を超える場合は、県の嵩上げ補助5%)。</p>			
28年度の進捗状況	<p>当初、発掘調査や出土品整理作業の実施、調査報告書を刊行予定であったが、平成28年4月の熊本地震や同年6月の豪雨災害による土砂崩れの災害復旧関連業務を優先的に進めたことから、28年度については計画を変更し、過去の調査で出土した遺物の整理作業のみを実施した。</p>			
課題・問題点	<p>現在、熊本地震や豪雨災害で被災した地点の災害復旧関連業務を優先的に進めている。また、史跡指定面積101,613.24㎡のうち、民有地5,762㎡(5.67%)の公有化が実現できていない。史跡整備を予定している範囲にも含まれているので、今後、公有化に向けた取り組みを行う必要がある。</p> <p>活用については、宇土城跡の本質的価値について広く情報発信し、市民の理解と関心を更に高めるとともに、地域の宝として利活用されるような取り組みを行う必要がある。</p>			
予算額・決算額	<p>H26予算額 13,103千円 H27予算額 4,402千円 H28予算額 2,290千円</p>	<p>H26決算額 13,015千円 H27決算額 4,316千円 H28決算額 1,388千円</p>		
担当課 自己評価	<p>災害復旧工事完了後は、平成25年度から着手した第5ブロックの横堀跡の発掘調査を本格的に再開するとともに、第3ブロックにおける城門跡の復元や、第4・第5ブロックの保存整備工事に着手する等、宇土城跡に対する市民の関心をより一層高め、地域資源として積極的に活用されるような取り組みを進めたい。</p>			
(外部評価委員からいただいたご意見)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な郷土の資料(史跡)を文化財として、ぜひ地域の宝として残していきたい。</li> <li>・宇土市民の関心を高めることが大切と思える。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>				
(ご意見を踏まえた今後の方向性)				



・往時の姿を理解できるように整備を継続するとともに、宇土市のまちづくりや地域振興に資する「地域の宝」として活用するための事業を積極的に行う。  
 ・熊本地震や豪雨災害による土砂崩れ箇所の災害復旧工事に今年度より着手しており、来年度も大規模な復旧工事を計画している。今後とも、城郭遺構を適切に保護し、次世代へ確実に継承していくための取組みを進める。

教育委員会としての  
今後の方向性

拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	市内重要遺跡保存活用事業	担当課	文化課
事業目的	<p>宇土市には、国指定3件・国登録1件・県指定8件・市指定107件の計119件の指定・登録文化財がある。これらの文化財や現時点で指定されていない遺跡の中には、国・県指定クラスの重要遺跡が存在する。これら重要遺跡を後世に継承していくため適切に管理・保存するとともに、市民に対して調査成果を広く公開する等、積極的な活用が求められている。</p> <p>このことから、市内遺跡の分布調査や発掘調査、出土遺物整理などを実施することにより、国・県指定に向けた様々な要件を整理するとともに、保存計画等を策定して遺跡の活用や恒久的な保存を図る。</p>		
事業内容	<p>周知の埋蔵文化財包蔵地における開発行為の把握に努め、必要に応じて試掘・確認調査を実施している。また、重要遺跡である轟貝塚について、国史跡指定に向けた基礎資料収集のための発掘調査を実施する。その他、各重要遺跡の保存・活用について、今後の保存活用等の方針を検討する宇土市重要遺跡保存活用検討委員会を開催する(年2回程度)。</p> <p>なお、本事業は国庫補助金を得て実施している(補助率50%)。</p>		
28年度の進捗状況	<p>周知の埋蔵文化財包蔵地における開発行為の把握に努め、必要に応じて試掘確認調査を実施した。また、平成28年6月の豪雨により墳丘の一部が崩落した市指定史跡天神山古墳について、崩落状況の記録等を目的とした確認調査を実施した。</p> <p>継続して実施している轟貝塚の発掘調査において、縄文時代人骨をほぼ完全な形で検出する等、貴重な成果が得られた。これまでの調査成果を広く周知するため、23年度以来の調査成果をまとめた轟貝塚発掘調査概報を刊行した。</p> <p>その他、宇土市重要遺跡保存活用検討委員会を計2回開催し、これらの取組みについて専門的見地から指導・助言をいただいた。</p>		
課題・問題点	<p>天神山古墳等、被災文化財の災害復旧が急務であり、今後も優先して復旧事業を進めていく必要がある。</p> <p>また、重要遺跡の調査では、轟貝塚中心部において層序等の情報が概ね得られたが、遺跡の広がり等について不明点が多く、今後の調査課題である。その他、轟貝塚の国指定を最優先課題としているため、曾畑貝塚や轟泉水道など、他の遺跡に関しては事業がほとんど進行していない等の課題がある。</p>		
予算額・決算額	<p>H26予算額 5,575千円 H27予算額 3,896千円 H28予算額 3,282千円</p>	<p>H26決算額 5,165千円 H27決算額 3,811千円 H28決算額 3,149千円</p>	
担当課自己評価	<p>国史跡指定を目指している轟貝塚・曾畑貝塚について、文化庁や有識者の助言・指導のもと発掘調査を継続して実施する。特に轟貝塚について、これまでの貝塚中心部の調査に加えて周辺部についても調査を実施し、その所見までを盛り込んだ発掘調査報告書を刊行し、国史跡指定の必要条件を満たしたい。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の遺跡等をしっかりと形で保存することも大切であるし、それを活用するために啓発活動にも努めてもらえたらと思います。</li> <li>・継続した取り組みの充実を願いたい。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			

・熊本地震からの復旧・復興の進展に伴い、開発行為の届出・通知件数が増加している。今後も、開発行為等による遺跡の破壊に十分注意し、必要に応じて試掘・確認調査を行う等、適切に対応する。  
 ・轟貝塚については、これまでの発掘調査成果を整理し、その成果をまとめた発掘調査報告書を刊行して国史跡指定への足がかりとする。  
 ・地域の遺跡や発掘調査成果等を広く市民に知っていただくため、説明会や体験発掘などの各種イベントを実施するとともに、市広報やホームページ(デジタルミュージアム)等を活用して周知する。

教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止
---------------------	--------------------------------

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	小西行長関連事業	担当課	文化課
事業目的	<p>城下町宇土の基礎を築いた宇土城主・小西行長の人物像や国内外での活躍・功績を再評価することによって、史料の掘り起しや新たな地域資源を生み出し、地域の活性化並びに観光の振興を図る。</p> <p>具体的には、小西行長に関連した研究を発表する講演会を継続して開催し、小西行長への理解を一般の方へ深めていただく。また、史料調査を行い、最新の研究成果を「うと学研究」に掲載する等、小西行長の研究拠点として広く情報を発信する。</p>		
事業内容	<p>小西行長に関する最新研究成果を発表する「よみがえる小西行長公」講演会を開催するとともに、小西行長に関する史料の掘り起し及び調査を行う。また、過去に開催した「よみがえる小西行長公」講演会の講演録を刊行する。</p>		
28年度の進捗状況	<p>「よみがえる小西行長公」講演会第11弾(7月9日、参加者125名)と第12弾(12月10日、参加者130名)を開催した。また、小西行長関連資料調査(東京)を専門家に依頼。調査成果を『うと学研究』(第38号)に掲載した。その他、「うと教育の日」関連事業として、城山公園において宇土小学校生徒に小西行長や宇土城に関する講話を行った。</p>		
課題・問題点	<p>講演会に参加する方の顔ぶれが同じにならないため、新規参加者を増やす工夫や積極的な情報発信を行う必要がある。また、これまで計20回開催してきており、テーマ設定が難しくなってきたため、参加者のニーズに沿った幅広いテーマの講演会を企画する必要がある。</p> <p>このような講演会をはじめとする小西行長顕彰事業に限らず、本市の歴史遺産に関する取組みが観光振興等、他方面に上手くリンクすることができるよう更に工夫する必要がある。</p>		
予算額・決算額	<p>H26予算額 559千円</p> <p>H27予算額 501千円</p> <p>H28予算額 431千円</p>	<p>H26決算額 449千円</p> <p>H27決算額 410千円</p> <p>H28決算額 303千円</p>	
担当課 自己評価	<p>本講演会は、平成28年度までに計20回開催し、毎回県内外から100名以上の参加があり、宇土市を代表する歴史イベントとして定着しているため、今後も継続して開催することが望ましいと思われる。</p> <p>また、小西行長関連講演会の参加者から講演録の刊行要望が多く、また途中から講演会に参加された方からも過去の講演会のことが知りたいとの要望が寄せられていることから、小西行長顕彰事業の重要な情報発信ツールとして、平成23年度以降に開催した講演会の講演録を継続して刊行する。27年度までに2冊の講演録を刊行しており、29年度に3冊目の刊行を予定している。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の偉人小西行長についての事業を啓発することも大切では。</li> <li>・継続した取り組みが望まれる。</li> <li>・イベント等に行長しゃんが出かける時、行長しゃん自身の名刺を作って相手に渡したらどうだろうか。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			

・来年度以降も継続して、関連講演会の開催を行うとともに、市広報やデジタルミュージアム等を活用した周知に努める。  
 ・講演会に参加できなかった方へも講演会の内容を通じて、より深く小西行長の人物について知っていただくために、過去の講演録の書籍化を継続的に行う。  
 ・今後も小西行長関連資料の収集に努め、「うと学資料室」で公開する等、資料館に匹敵する機能を持たせ、行長研究の拠点となるよう努める。

教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止
---------------------	--------------------------------

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	大太鼓活用事業	担当課	文化課
事業目的	「雨乞い大太鼓」は、日本を代表する民俗文化財の一つである。本事業は、宇土に現存する江戸時代から明治時代の雨乞い大太鼓を活用して、市民の誇りの再生、地域社会における連携の緊密化、市民意識の高揚と産業振興等を図ることを目的としている。		
事業内容	「宇土大太鼓フェスティバル」開催助成(補助金)及び関連業務等の支援を行う。また、宇土雨乞い大太鼓保存会青年部(宇土天響太鼓)の協力を得て、「太鼓教室」を開催し、大太鼓フェスティバルや地蔵まつりで成果を発表する。		
28年度の進捗状況	<p>「第31回宇土大太鼓フェスティバル」(8月6日)は、熊本地震復興チャリティーとして実施。市運動公園が熊本地震対応業務用の駐車場となったため使用できなかったことから、宇土シティモール駐車場を会場とした。</p> <p>太鼓教室については、開講直後の4月に熊本地震で市民会館が被災したことから、復旧工事完了後の11月から再開し、2月まで毎週1回開催した。市民35名が受講し、第1回地域伝統芸能祭(2月11日)とハートフルフェスタ(2月19日)で練習の成果を発表した。</p> <p>また、3月には「宇土の雨乞い大太鼓」が、国の重要有形民俗文化財に指定された。雨乞い太鼓の指定では全国初、熊本県では初めての国重要有形民俗文化財の指定であり、宇土の雨乞い大太鼓の文化財としての価値が国レベルで高く評価されたといえる。</p>		
課題・問題点	<p>大太鼓フェスティバルについては、例年野外(市運動公園)で開催しているが、真夏の炎天下で準備しなければならず、かつ日中の暑い時間帯に開始する必要があることから、気候がよい秋頃に開催を検討した方がよいかもしれない。</p> <p>太鼓教室については、毎年のように募集定員を超える申込みがあり、希望者全員を受け入れることができない場合がある。</p>		
予算額・決算額	H26予算額 1,186千円 H27予算額 1,191千円 H28予算額 1,273千円	H26決算額 1,121千円 H27決算額 1,106千円 H28決算額 934千円	
担当課自己評価	<p>平成28年度は熊本地震の影響で大太鼓フェスティバルの開催が危ぶまれたが、各地区の太鼓にかかわる市民の熱意によって例年通り開催することができた。宇土の雨乞い大太鼓が国重要有形民俗文化財に指定されたこともあり、市民の太鼓に対する興味・関心が高まっている。今後もフェスティバルへの支援を継続するとともに、太鼓教室も毎年定員をオーバーする希望者があるほど人気があることから、継続して実施していきたい。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な事業であると思います。</li> <li>・継続した取り組みが望まれる。</li> <li>・太鼓教室の開催を充実してみてもは?(各地区ごと等)</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目的である「市民の誇りの再生や地域社会における連携・市民意識の向上」に向けて、官民協働で今後も本事業を推進する。</li> <li>・国の重要有形民俗文化財に指定されたことから、これまで以上に保存活用を進めて宇土の雨乞い大太鼓の価値や魅力を高める取り組みを行う必要がある。</li> </ul>			

教育委員会としての  
今後の方向性

拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	宇土市歴史的資料保存活用事業	担当課	文化課
事業目的	宇土市史編纂事業等で収集した歴史的・文化的価値を有する資料を、市民が気軽に活用できるための環境整備を行うとともに、市民の方々が宇土の歴史・文化により一層興味を持っていただけるよう、これらの資料の持つ価値をPRし、地域活動等につなげていくための事業を実施する。		
事業内容	市史編纂事業で収集した歴史的価値を有する膨大な資料を適切に保存・整理するとともに、郷土資料の収集を積極的に行う。また、収集した資料を専門的見地から調査・研究し、「うと学資料室」等において、市民向けに広く公開し、活用の推進を図る。		
28年度の進捗状況	熊本地震による建物解体及び自宅整理等で見つかった歴史資料等の寄贈受け入れを行った(計4件)。また、本市の歴史研究の成果をまとめた『うと学研究』(第38号)の刊行や「うと学資料室」の利用相談(8月～3月まで毎月第2・第4火曜日の午後)、古文書入門講座を開催した(計12回、延べ参加者数234名)。さらに、デジタルミュージアムの内容更新を積極的に行った。 これらの取組みについて、宇土市歴史的資料保存活用事業運営委員会で報告し、専門的見地から意見をいただいた(9月21日・3月24日)。		
課題・問題点	市史編纂事業等で収集した未整理の資料が多く残っており、できるだけ早く整理作業を進め、より多くの資料を公開できる環境を整える必要がある。 また、資料の寄贈件数が年々減少している。個人所有の資料は廃棄される可能性があるため、今後積極的に資料保存に対する啓発を行い、寄贈を促したり、各家で適切に保存していただけるよう周知する必要がある。一方、資料を適切に収蔵・保管する施設が本市には少ないため、今後は空き施設の確保や現行の収蔵環境改善に取り組む必要がある。		
予算額・決算額	H26予算額 4,082千円 H27予算額 4,852千円 H28予算額 3,992千円	H26決算額 3,474千円 H27決算額 3,956千円 H28決算額 2,845千円	
担当課 自己評価	平成26年度に開設した「うと学資料室」については、今後も教育委員会所蔵資料を中心に公開対象資料を増やし、利便性を向上させる必要がある。 また、これまで各種講座等を開催し、「うと学資料室」の利用促進及び歴史的資料の活用を図っている。毎回多くの方に参加していただいているが、「市民が自ら学ぶ場」を提供するとともに、幅広いニーズに対応するため、今後も継続して開催する必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続した取り組みが望まれる。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			



・『広報うと』に連載中の「うと学だより」や『うと学研究』の刊行を通じ、宇土の貴重な地域資源である文化財や歴史資料を市民に周知するとともに、「うと学資料室」の利用促進に努める。  
 ・古文書講座等の開催を通じて、市民に古文書や歴史資料の重要性を伝え、資料保存の担い手を育成する。  
 ・個人で所有されている古文書等の歴史資料の適切な保存を呼びかけるとともに、必要に応じて市への寄贈を促していく。

教育委員会としての  
今後の方向性

拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	図書館蔵書充実事業	担当課	図書館
事業目的	市民の知識・学習の拠点として、図書館蔵書の充実を図ることにより、市民サービスの向上を目指す。併せて、元気な宇土市づくりに貢献する。		
事業内容	年間を通じて、図書の購入を行い、蔵書及びサービスの充実を図る。		
28年度の進捗状況	平成28年度の、図書購入費は450万円。28年度中の購入冊数は3,299冊。		
課題・問題点	熊本地震の影響と施設の老朽化により、耐震改修工事を行うため、書架のスペースが減少する可能性がある。そのため限られたスペースで市民が探しやすい借りやすい書架の配置を研究し、蔵書及びサービスの充実を図ることが必要である。		
予算額・決算額	H26予算額 4,411千円 H27予算額 4,000千円 H28予算額 4,500千円	H26決算額 4,411千円 H27決算額 4,000千円 H28決算額 4,500千円	
担当課 自己評価	予算の範囲内での活動は出来ているが、利用者の増加へ繋がられるような書架の配置の見直しと新しい図書館サービスを検討する必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書数、利用者数の増加を期待します。</li> <li>・新しい図書館サービスを検討してほしい。</li> <li>・蔵書の充実を図ってほしい。</li> <li>・課題・問題点に書かれているように、蔵書の充実、サービスの充実に知恵を搾っていただきたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
外部評価委員から頂いたご意見で蔵書数、利用者数の増加を図ることは、これまでに引き続き工夫を行い、更なる蔵書の充実に努めたい。また、限られたスペースでサービスを充実させるために、新しい図書館サービスを模索・研究し、市民が自ら来館したくなるような事業を実施していく。			
教育委員会としての 今後の方向性	<div style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">拡 充</span> ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止         </div>		

※評価判定

- 拡 充 …… 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 …… 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 …… 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 …… 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成29年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	給食センター施設整備事業	担当課	給食センター
事業目的	施設整備の点検を行い、年次計画的に優先度を決め、衛生管理の徹底や給食業務の充実を図るため、施設整備を行う。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速度ミキサー</li> <li>・給食センター空調機</li> <li>・配送用コンテナ</li> </ul>		
28年度の進捗状況	平成28年度は予算の確保が厳しく、予定どおり実施出来なかった。		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設は築年数38年を超過し、老朽化が進んでおり整備が必要である。</li> <li>・設備も使用頻度が多く、損傷や破損が出ている。</li> </ul>		
予算額・決算額	H26予算額 20,437千円 H27予算額 49,163千円 H28予算額 3,857千円	H26決算額 20,314千円 H27決算額 44,164千円 H28決算額 1,105千円	
担当課自己評価	平成28年度においては予算が確保できず予定どおり実施できなかったが、平成29年度以降は計画的な予算確保を行い、年次計画的に優先度を決め整備が行えるようにしたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の維持管理には十分配慮してください。計画的整備を望みます。</li> <li>・計画的に設備の充実を図り、安全でおいしい給食の提供に取り組んでほしい。</li> <li>・事業は維持して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
給食センターは、昭和54年に開設し運営を行っているため、施設及び設備の老朽化が進んでいる。学校給食法により、学校給食の実施に必要な施設及び設備に要する経費並びに学校給食の運営に要する経費については設置自治体の負担となっており、美味しく安心・安全な給食を提供するためには施設や設備の点検を行い、衛生管理の徹底や給食業務に充実を図るため、計画的に優先順位を決めて施設整備・運営を行っていく。			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

### Ⅲ 教育委員会の活動状況

#### 1 委員会議の開催状況

宇土市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催しています。

この会議において、教育長と教育委員が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けています。

平成28年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりです。

期日	場所	付議事件
平成28年4月13日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 専決処分の報告及び承認を求めることについて 宇土市立小中学校小規模特認校制度に関する規則及び宇土市立幼稚園保育料に関する規則の一部を改正する規則 平成28年度宇土市学校教育努力目標について 平成28年度宇土市幼稚園教育努力目標について 平成28年度宇土市生涯学習努力目標について 平成28年度宇土市人権教育推進努力目標について 平成28年度宇土市文化振興努力目標について 平成28年度宇土市立図書館努力目標について 平成28年度宇土市社会体育努力目標について 平成28年度宇土市学校給食センター努力目標について 教育支援委員会にかかる就学啓申について 平成28年度宇土市立小中学校教務主任等の任命について 平成28年度学校評議員の委嘱について 平成28年度幼稚園評議員の委嘱について 平成28年度宇土市心の教室相談員の委嘱について スポーツ功労者の表彰について
平成28年6月10日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 宇土市立幼稚園の保育料減免に関する規則及び宇土市立幼稚園保育料に関する規則の一部を改正する規則について 宇土市学校教育指導員設置規則の一部を改正する規則について 学校運営協議会委員(花園小学校)の任命及び解任について 宇土市教育支援委員会委員の委嘱について 宇土市社会教育委員の委嘱について 宇土市公民館運営審議会委員の委嘱について 宇土市重要遺跡保存活用検討委員会委員の委嘱について 史跡宇土城跡保存整備検討委員会委員の委嘱について 宇土市網田焼の里資料館運営委員会委員の委嘱について 宇土市立図書館協議会委員の任命について

		宇土市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 平成28年度宇土市一般会計補正予算について 平成28年度宇土市学校教育指導員の委嘱について
平成28年8月10日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 宇土市立幼稚園の保育料減免に関する規則の一部を改正する規則について 平成28年度宇土市一般会計補正予算について
平成28年9月13日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 専決処分の報告及び承認を求めることについて 平成28年度教育支援委員会にかかる就学答申について 宇土市立幼稚園保育料に関する規則の一部を改正する規則について 宇土市学校給食専門委員会委員の委嘱について 平成28年度宇土市一般会計補正予算について 平成28年度第1回臨時教育支援委員会にかかる就学答申について
平成28年10月11日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 宇土市いじめ防止対策基本方針(改定版)について 宇土市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則について 平成28年度学校評議員の委嘱について 宇土市教育委員会外部評価委員会委員の委嘱について 宇土市学校給食専門委員会委員の委嘱について 平成28年度第2回教育支援委員会にかかる就学答申について
平成28年11月10日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 宇土市教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果について
平成28年12月12日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 専決処分の報告及び承認を求めることについて 平成28年度教育支援委員会にかかる就学答申について 平成28年度第1回臨時教育支援委員会にかかる就学答申について 宇土市小学校部活動社会体育移行検討委員会の委嘱について 宇土市食物アレルギー対応委員会設置条例について 平成28年度宇土市一般会計補正予算(12月)について 平成28年度宇土市入学準備祝金給付基金特別会計補正予算(第1号)について
平成29年1月13日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 宇土市小中一貫教育推進計画(素案)について 宇土市民会館指定管理者運営評価委員会委員の委嘱について 宇土市学校給食専門委員会委員の委嘱について

平成29年2月10日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 市組織の見直しに伴う関係条例の整備に関する条例について 市組織の見直しに伴う関係規則の整備に関する規則について 宇土市立幼稚園規則及び宇土市立幼稚園管理運営規則の一部を改正する規則について 平成28年度第2回臨時教育支援委員会にかかる就学答申について 宇土市食物アレルギー対応委員会委員の委嘱について 児童・生徒の表彰について 平成28年度宇土市一般会計補正予算(3月)について
平成29年3月13日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について 宇土市公民館指導員設置規則の一部を改正する規則について 平成29年度宇土市立学校内科医, 眼科医, 耳鼻科医, 歯科医及び薬剤師の委嘱について 平成29年度学校産業医の委嘱について 平成29年度宇土市心の教室相談員の委嘱について 宇土市社会教育指導員の委嘱について 宇土市公民館指導員の委嘱について 宇土市地区公民館長の任命について 宇土市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 学校給食センター給食物資納入指定業者の選定について 平成29年度宇土市一般会計予算について 平成29年度宇土市入学準備祝金給付基金特別会計予算について 平成28年度第3回臨時教育支援委員会にかかる就学答申について

## 2 総合教育会議

期日	場所	協議事項等
平成28年10月19日	仮設庁舎 2階会議室	(協議事項) 学校教育上の諸問題について 高月邸を活用したまちづくりについて
平成29年2月16日	仮設庁舎 2階会議室	(協議事項) 学校における食物アレルギー対応について 小学校運動部活動の社会体育移行について 宇土市小中一貫教育推進計画について

## 3 その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議、関係行事へ出席するなどしています。

平成28年度における、その主な活動は次のとおりです。

- 宇城市町教育委員全員研修会
- 教育委員行政視察研修
- 熊本県市町村教育委員大会
- 学校訪問
- 各小中学校入学式・卒業式
- 各幼稚園運動会・各小学校運動会・各中学校体育祭
- 成人式典
- 学校給食試食会
- その他各種イベント事業への出席

## 【宇土市教育委員会委員名簿】

(平成29年12月1日現在)

職名	氏名	任期
教 育 長	おおた 耕幸 太田 耕幸	平成27. 10. 1～平成30. 9. 30
委員長職務代理者	いよ 富久 伊豫 富久	平成27. 10. 1～平成30. 9. 30
委 員	いせ 俊晴 岩村 俊晴	平成28. 12. 24～平成31. 9. 30
委 員	よこ 修 近藤 修	平成28. 12. 24～平成32. 9. 30
委 員	そのだ ひろ子 園田 寛子	平成29. 10. 15～平成33. 9. 30